



発行所 八幡浜高等学校 同窓会
八幡浜市松柏丙654
八幡浜高等学校内
TEL(0894)22-2570

創立百二十周年に向けて

同窓会長 木村謙児



みかんの白い花が咲き誇り、街中が柑橘の香りがただよう良き季節となり、この良き季節に

八幡浜市では、「ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」が八幡浜みなとをメイン会場として開催され、多くの方に来場いただき、更に千六百余の出品数で成功裡に終わりました。

同窓の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、八幡浜高校同窓会では平成三十年より、本部役員の常任理事として新たに七名の本校PTA会長経験者に加わっていただき、役員会においても活発な協議が繰り返され、創立百二十周年に向けての動きが加速して参りました。

ここで、昨年を振り返ってみますと、まず始めに六月三十日の本部総会を皮

切りに八月十八日松山支部、二年ぶりに十月二十日に関東同窓会、十二月七日名坂クラブ、そして年が変わり二月二日西予支部、二月二十三日近畿同窓会と開催されました。本部を含め四十四十一名の同窓の皆様に参加いただいた事を報告させていただきます。

特徴的には、関東同窓会が二年ぶりに単独開催となり新たに赴任された佐伯校長、本部役員との交流、懇親も図られました。また、近畿支部では南予圏域の各高校との連携も強化され、名称も近畿同窓会と改め今後も活発な活動が展開されることとなりました。全ての会で御協力いただきました役員並びに会員の皆様に、心より感謝申し上げます。今後も、多くの同窓生が参加できるよう、会員の皆様が互いに呼びかけをお願いできればと思います。

さて、今春卒業した百九十五名を迎え、同窓生総数三万七千四百六十三名となり、いよいよ来年度は、創立百二十周年を迎えます。元号も令和となり八幡浜高等学校百二十周年記念事業期成会を発足させ、具体的な事業及び行事を推進することになりますので、同窓の皆様には、引き続き御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

頼もしき俊英集う

校長 佐伯 鈴 乃



向暑の候、同窓生の皆様におかれましては、ますます御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

本年、八幡浜高校全日制は、三学年とも普通科四クラス、商業科一クラスの一年生五クラスで、計五百七十八名でスタートしました。四月九日には元気な新入生が百九十六名入学し、大城八幡浜市長様はじめ多くの御来賓の皆さまに御列席いただき、盛大に入学式が行われました。

高校入試を見事突破して、晴れがましく集う新入生の姿は誠に頼もしく、また、今年は珍しく桜が残っており、下手ながら一句詠ませていただきました。

満開の 桜下に集う 入学式 制服の 折り目清らか 新入生 頼もしき 俊英の集い 山笑う また、新年度早々、嬉しいことがありました。

本校野球部の春季大会準優勝です。昨日の愛媛新聞には、「八幡浜 春めく投打」の文字が紙面を飾っていました。生徒たちの活躍に、本心に胸を熱くいたしました。文武両道の進学校として、堂々の活躍でした。

今春行われた南予総体におきましては、陸上部女子が二十五年連続優勝、男子が九年連続優勝、女子バレーボール部が優勝、女子は五年連続優勝、卓球部女子がダブルスで十五年ぶりに優勝しました。愛媛県総体には、百八十八名が出場し、男子陸上競技部が総合優勝を果たしました。実質的な文武両道の進学校としての面目躍如の感があります。また、平成三十年度の進学実績では、愛媛大学医学部医学科、京都大学、大阪

大学、名古屋大学などの難関大学を含め、八十名近くの生徒が国立大学に合格しました。

新元号「令和」は、「厳しい寒さの後春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたいという願い」がこもっているとされます。

本年から、八幡浜高校は、八高DPと銘打ち、具体的に、卒業までに身に付けたい人物像を学校目標とし、前進を開始します。この八高ディプロマポリシーは、三月に、生徒、教職員全員で考えた新しい学校目標です。

八幡浜高校の八、末広りの八にちなんで、八個設定いたしました。

- ①創造力 ②決断力 ③行動力 ④対応力 ⑤突破力 ⑥継続力 ⑦構想力 ⑧深化力

今年度から、この八高DPに向かって、学校が一丸となって、深い学びのフィールドを作っていくと考えています。その深い学びのフィールドから、生徒一人一人の個性あふれる可能性の桜梅桃李の花が、それぞれに、咲き誇っていくことを願っています。

本校の強さは、部活動や様々な活動で大切にしている公立の進学校であることだと感じます。生徒たちは、実に多忙です。限られた時間の中で、勉強や部活動に取り組んでいます。その努力は、社会に出たときに、レジリエンス(困難を乗り越える力)として、生きる力となると信じています。

明年、令和二年、いよいよ本校は創立百二十周年を迎えます。その準備として、本年は、周年記念行事のために、内容等の検討をして参りたいと考えています。同窓会の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動に対する変わらぬ御支援・御協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。

文化講演会

演題 デザインとアートにできること..

八幡浜〜東京〜尾道〜八幡浜

図工室Design & Art lab. 主催 高岡 陽氏 (第三十三回卒)



平成三十年度の文化講演会に、現在八幡浜市で図工室Design & Art

LDを開いておられる高岡陽先生をお迎えしました。高岡先生は、昭和五十七年に八高普通科を卒業された後、東京藝術大学美術学部デザイン科に進まれ、佐藤晃一デザイン室などを経て、平成二十年からは尾道市立大学芸術化学部美術家デザインコースで准教授として教鞭を取られました。現在は、八幡浜市新町商店街で「図工室Design & Art lab.」を主宰されており、地域に根ざした作品を発表しております。

今回の講演では、御自分の高校生活や大学生活を振り返りながら、デザインに対する思いを熱く語ってくださいました。また、八幡浜市の活性化に向けて様々な活動をしておられ、中でも「黒い商店街」はそのネーミングから「何が黒いの?！」という疑問を持つと思いますが、高岡先生の手にかかると、黒とオレンジのほのほのスタイリッシュな作品が商店街を今までとは違った雰囲気にしてくれ、黒いポストや黒い自販機を探しやすくなります。そのほか、尾道市のナンバードプレートなどをはじめとする多くのデザインを写真で紹介してくださり、普段何気なく目にするものも、デザインを考え悩み作り上げる人がいるということ、そして八高出身の先輩の作品だということに気づいた生徒も多かったと思います。八幡浜市を含め、愛媛県内にある「美術」とか「デザイン」を職業として生活していくことはハードルの高いことだと考えがちです。身近な人にデザインナーや画家がいる、という生徒も少ないでしょう。保護者の立場から見ても、不安に思う方が多いと思います。しかし、今回の講演から、信念を持って取り組み、努力し進んでいくことで、周りの人々も巻き込んで、困難だと思える夢をかき立てることができると生徒たちを感じてほしいと思います。



文化講演会

演題

一人の大学教授から高校生にできる(かもしれない)助言

慶應義塾大学 訪問教授

繁 柘 算 男氏 (第十五回卒)

五月二十日、東京大学名誉教授で、現在慶應義塾大学訪問教授をされている繁柘算男先生(昭和三十九年普通科第十五回卒)による講演会が開かれました。テーマは「一人の大学教授から高校生にできる(かもしれない)助言」で、繁柘先生御自身の経験談や、大学入試を好機と考えること、また進路選択の際にどのように意思決定をすべきかということについて話していただきました。心理学が御専門ということもあり、各教科についての学び方や、意思決定をする際のヒントなどを分かりやすく説明していただき、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。



平成三十年度同窓会報告

八幡浜高校の同窓会は、本部と松山支部・関東同窓会・近畿同窓会・西予支部・名坂クラブの五支部、卒業生総数三七、〇〇〇余名から構成されています。毎年、本部・各支部で総会が開催されており、多くの同窓生の参加を募っています。

○松山支部総会

開催日 平成三十年八月十八日
会場 東京第一ホテル

参加者が最も多い支部総会で、同窓生がたくさん住んでおられます。若い参加者も、心強く感じておられることと思います。



○関東同窓会

開催日 平成三十年十月二十日
会場 主婦会館プラザエフ

二年ぶりの開催とあって、再開を懐かしがる同窓生が多くおられました。仕事を通して、同窓生とつながった方もおられ、改めて八高同窓生が様々なところで活躍していると実感しました。



八幡浜高等学校同窓会総会

平成三十年六月三十日
ハーバープラザホテル
百二十名



昨年度の同窓会総会は、恩師の中山博道先生(保健体育)、平岡長治先生(国語)をお迎えして行われました。お二人ともご自分の得意とする分野で活躍されており、

若々しく大変お元気でした。先生方を慕って教え子である同窓生や同僚として働いていた同窓生が大変多く集まり、若かったときに部活動や授業で愛情のこもった厳しい指導について思い出話をされていることが多かったようです。平岡先生が帰り際におっしゃられていた「そんなに僕は叱ってたかなあ」とのお言葉が印象的でした。また今回は、八幡浜女学校の同窓生の方が多く参加してくださいました。お友達と誘い合っ



令和元年、さらに飛躍を!

平成三十年度愛媛県高等学校総合文化祭や第六十七回秋季県展でも美術部と書道部の作品が入賞しました。



第六十七回秋季県展
特選「視線」
笹田 わかこ



平成三十年度愛媛県高文祭
優秀賞「いんどり」
上原 璃 乙

百尋下臨則崢嶸 千仞珠辟友暎

八幡浜高校野球部、春季四国地区高等学校野球愛媛県大会で準優勝!

野球部が春季四国地区高等学校野球愛媛県大会で準優勝に輝きました。一回戦では松山南高校を七回コールドの十対二で、準々決勝では聖カタリナ学園高校を三対二で、準決勝では今治北高校を十一対八で破りました。決勝戦では今治西高校に三対六で惜敗しましたが、勢いのある試合ぶりでした。

これから夏の大会に向けて、さらに練習に励みます。同窓生の皆さん、応援どうぞよろしくお願います。



商業研究部、全国大会に二年連続出場!

商業研究部が、平成二十九年度に続き、平成三十年度も全国大会に出場しました。



愛媛県大会は十三連覇です。平成三十年度は、「郷土愛の醸成を目指して」をテーマに、「未利用魚」を使用した活動を行いました。八幡浜港で水揚げされた未利用魚を使った給食メニューを考案し小中学生に食べてもらったところ、とても好評で、今年度はさらに地元でとれる魚のおいしさを知ってもらう活動を広げようと、ゴールデンウィークには大島テラスで、未利用魚を使った食事を提供しました。ぜひ皆さんも味わってみてください。

また、八幡浜港と八幡浜駅では、それぞれフェリーと伊予灘ものがたりのお見送り活動や、ふるさと納税の返礼品の一つであるみかんタオルの販売活動も続いています。地域の方々の支援に感謝し、これからも活動していきます。



陸上競技部女子駅伝チーム 十二連覇で全国大会へ!



平成30年度も、陸上競技部女子駅伝チームが12連覇で愛媛県予選を制し、全国大会に出場しました。関西地区から毎年応援にきてくださっている同窓生の方々、本当にありがとうございます。

〈八高人事〉

平成三十年度末に、同窓生の宮本昇二先生(第四十五回卒)、坂井昭太先生(第六十三回卒)、窪野遠志(第二十三回卒)先生が離任され、新しく岡野博志先生(第二十四回卒)、道上聡紀先生(第二十六回卒)、馬詰直人先生(第二十七回卒)、菊池光弘先生(第二十八回卒)が着任されました。令和元年度に八幡浜高校に勤務する同窓教職員は十六名となりました。

編集後記・お願い

令和元年度八高同窓会報の発行に当たり、原稿を快く書いてくださった方々、本当にありがとうございます。各回で開催している同期会がありましたら、どうぞお知らせください。楽しい様子を知らせていただけたらと思います。よろしくお願います。

八幡浜には若者が少ない。だが、八幡浜の若者は熱いと思う。

第六十六回卒 高橋 一帆



ここでは私が関わった「浜若子」(はまじゅつこ)の「We Want」を通して感じたことをお伝えしたい。

「浜若子」とは二〇一六年に設立された若者による団体で、夏のてやてやウエーブなどで活動している。設立当初は五十名ほどだったメンバーも現在は百五十名に膨らみ、地域を盛り上げる団体の一つとして少しずつ認知度を上げてきた。

「We Want」とは二〇一八年夏に市内の北浜公園の改修工事に伴い開催されたイベントである。市内の公務員や民間事業者が中心となって企画したこのイベントにも長期休暇で帰省中の若者が運営に入り、無尽蔵の体力でイベントを支えた。



私はこの二つの取組に代表という立場で関わり、わかったことがある。八幡浜出身の若者は皆んな地元が大好きだ。

「みなっとしか行くとこがない。」や「夜の商店街が寂しい。」は若者がよく使う常套句だが、これは地元愛ゆえの表現、いわばツンデレである。少しお酒を飲めば、学生時代に想

いを馳せ、互いの地域を自慢し合い、やっぱり地元が一番と言って解散する。私にとつてもとても心地いい時間だ。

私は現在、大学で遠く仙台におり、様々な地域の学生と話をするが、こんな地域は滅多にない。八幡浜にある貴重な資源であろう。

そんな彼らに上記のような「楽しい」と思える舞台を用意すれば、意図せずとも若者による活性化が起きるのではないかと考える。

私が八幡浜での活動を開始して約四年。やってよかったと思える瞬間の一つが活動に中高生が参加してくれたことだ。「浜若子」には踊り手として、「We Want」にはプログラム参加者として活動を支えてくれた。彼らの自由な発想は目から鱗で、先輩として身が引き締まる。八高にいると高校時代から大学生や若い社会人と関われる機会は少ない。身近な若者と触れ合い、自分の人生を考える貴重な時間を用意できていれば、少しは母校に恩返しできたかなと思う。

愛宕山から見る星空が綺麗で、遠方で奮闘する自分の元気の源の一つである。

一、二三四kmも離れた仙台でこのような文章を書く私が八幡浜のことを一番愛している若者なのかもしれない。



○名坂クラブ同窓の集い
開催日 平成三十年十二月七日
会場 武蔵
参加者 十六名
一年に一度の再会を楽しみにされている同窓生が多く、回を重ねるごとに親しみを感じる同窓会です。若い方々の参加をお待ちしています。



○西予支部総会
開催日 平成三十一年二月二日
会場 富士廻屋旅館
参加者 二十三名
平成になってからの卒業した参加者の割合がもつとも高い会です。列車通学や列車待ちの時間の使い方で盛り上がりがあります。

昭和三十六年卒業同期会
第十二回卒 二宮 孝夫



私たち昭和三十六年卒業同期会は、八高第十二回卒業生の同期会です。還暦を期に商業科・普通科合同の同期会を結成し、今回四月二十一日の会

○近畿同窓会
開催日 平成三十一年二月二十三日
会場 大阪新阪急ホテル
参加者 八十名
毎回地元八幡浜の名産品を目指して、ビンゴ大会にじゃんけん大会と大いに盛り上がりました。村田支部長さんや同窓会の開催に尽力してくださる方々の結束も固く、今年は九十歳の同窓生に記念品が贈られました。



で十回目を迎えました。八幡浜、松山での開催のほか、第五回は東京でも開催し、毎回恩師の先生にも来ていただきました。はるばる関東や関西から戻って参加したり、体調があまり良くないときでも、同級生の顔を見たら良くなりそうだと医師にも同行してもらって来てくれたりと、つながりの深さと同級生のありがたさが大変身にしみる会でした。年令のこともあり、今回で最終回とすることに決めましたがこれからも同級生との絆を大切にしていきたいと思